

# 復習シート 第二学年 国語



組	番号	名前

【発表者が伝えたいことを正確に話す方法とその工夫を考える問題】

1 石田さんの学級では総合的な学習の時間に、埼玉県の郷土料理について調べ、スピーチをすることになりました。左は【石田さんのスピーチ原稿】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは「すったて」という郷土料理を知っていますか。↑「1」  
 「すったて」は、あるB級ご当地グルメ王決定戦で優勝したことがある埼玉が誇る郷土料理のひとつです。↑「2」  
 古くから稲作が盛んな川島町では、忙しい農作業の合間でも、簡単に美味しく食べられる「すったて」が代々、受け継がれてきました。↑「3」  
 みそをベースにゴマ・キュウリ・青じそ・ミョウガ等の夏野菜をすり鉢ですり合わせたものに、冷たい水やだし汁を注いで、つけ汁とします。それにうどんをつけて食べる川島町に昔から伝わる郷土食です。↑「4」  
 食欲のない暑い夏でも、様々な薬味のすがすがしい香りとゴマの風味で食が進みます。また、新鮮な夏野菜とゴマの高い栄養価で夏バテになりません。ぜひ、みなさんも食べてみてください。

(1) 石田さんのスピーチの方法として、あてはまらないものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。 **レベル8〜9**

- 1 聞き手に対して提案や質問をなげかけ、聞き手の興味を引き付けている。
- 2 聞き手が図表を目にせずとも、郷土料理を想像できるように詳細な説明をしている。
- 3 聞き手の反論を事前に想定したうえで、それに答える説明を付け加えている。
- 4 聞き手が郷土料理に魅力を感じるような、経緯や長所を明確に述べている。

(2) 「すったて」の魅力がより伝わるように、石田さんは左のパネルをスピーチの中で提示しました。そのタイミングをスピーチ原稿の「1」から「4」の中から一つ選びなさい。 **レベル8〜9**





# 復習シート 第二学年 国語



組	番号	名前

## 【登場人物の心情を読み取る問題】

1 次の問題を解きなさい。

「ここまでのあらずじ」 岡村七郎は、とても仲の良かった友人の沢田を、事故で亡くし、大きなショックを受けている。そして七郎が去年、沢田と参加し活躍したT中学との対抗マラソン大会を迎えた。しかし、気持ちが入らない状況であった。

その秋のマラソンは「名月マラソン」という名目で、十五夜の晩決行されることになっていた。O町の海岸からT町まで、海岸線五哩の往復というのである。

空は蒼々と澄み渡っていた。お伽噺のそのの如く、大きな月は未だ暮れきれぬ中から空に白銀のように光っていた。

町民は熱狂した。花火はひっきりなしにあげられた。砂浜は見物の人、応援の人々で麻のように乱れた。海岸の所々には目標の為の篝火が燃え始めた。——その夜米村と共に選手の重任を帯びた七郎が、何れ程衆目を集め、又味方の人々から期待されたかは、ここにしるすまでもあるまい。

やがて割れるような歓呼に送られて、選手達は徐ろにスタートを切った！

余り長くもない町を出てしまうと、ただ遠くに祭のようなぞめきが、聞える許り。それもだんだんに消えてゆくと、もう月と海とそうして海辺の松とより他に見ているものはな

かった。水面に投げられた月光の反射が松林の奥まで光っていた。さざ波はパサパサと駆ける七郎の足音に韻律を合せていた。

① 何という美しい月だろう！

七郎は駆りながら思わず呟いた。——自分の心とは全然離れて、ただ足だけが機械のように動いているのであった。あとにも先にも人影は見えなかったから、自分が勝っているだか、敗けているのだから解らなかつた。——今が今、あれ程多勢にさわがれて送り出された自分であるとは、どうしても考えられなかつた。それ程月は美しく静かに照っていた。……今にも沢田の声が聞えるかのように、波は小さく囁いていた。今夜のような良夜な

ら、月の世界にもゆけそうに思えた。月とお話も出来そうに思われた。死ぬことと生きることは、別にそう大した区別のあるものとは思われなかった。そうなると七郎は今迄沢田の死を悲しく思っていた事が、何だか無意味のように思われ出した。

「そう、沢田は今頃どんなに幸福に暮しているかわからない……」

もう悲しむまい。そうして沢田がいる時と同じように、愉快に楽しく送れないわけはない。何故なら沢田はすぐその月の窓から、自分に話しかけているのだもの……。

「沢田君、今日から又二人で旧のように面白く遊ぼうね。」

誰にいうともなくこう言った、七郎の瞳は新しい希望にもえて来た。

「岡村君、君は思い違いをしているよ。君は僕が死んだと思って悲しんでいるが、僕は決して死にはしないよ。そら、去年と同じように君と一緒に駆けているじゃないか。」というかのように見えた。

七郎は思はず微笑んだ。

「沢田君、一緒に駆けよう。」と云って、七郎は今度こそ本気になって走り出した。

《牧野信一「月下のマラソン」より。学習上の配慮により旧仮名遣いを直している。》

(注) ※五哩||約八km。一マイルは約一・六km。

※篝火||夜間、照明などのために燃やす火のこと。

※衆目||多くの人が見ること。

※歡呼||喜んで大声をあげること。

※ぞめき||浮かれてさわぐ様子のこと。

※良夜||月の明るい夜のこと。特に、中秋の名月の夜のこと。

問1 ——線部①「何という美しい月だろう！」とありますが、七郎が感動した月の様子を、たとえを使って詳しく説明している一文を探し、最初の五字を書き抜きなさい。

レベル7/9

問2 ——線部②「七郎は今度こそ本気になって走り出した」とありますが、その理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

レベル8

- 1 七郎は友人の沢田が死んだと思っていたが、実際に目の前に現れた姿を見て近くにしていることを実感でき、力が湧いたから。
- 2 七郎は去年死んだ沢田のことを月から思い出し、走っている時のさざ波が沢田の応援に聞こえて新しい希望がもてたから。
- 3 死んだ友人の沢田の声が美しい月の光とともに自分に降り注ぎ、月の世界でやっと再会でき、励まされたから。
- 4 七郎は死んだ沢田を美しい月によって近くにしていると感じ、その沢田と一緒に走ろうと言ってくれているように思えたから。

# 復習シート 第二学年 国語



組	番号	名前

## 【文節の数を問う問題】

1 次の文の文節の数を漢数字で答えなさい。

レベル9

春になって山に積もった雪も溶けてしまった。

## 【助詞の用法を問う問題】

2 次の文のー線部と同じ意味・用法のものを1から4の中から一つ選びなさい。

レベル7

○ 朝は気持ちがよいから、窓を開けて空気を部屋に入れ換える。

- 1 朝は、家から最寄り駅まで歩く。
- 2 近くの古墳から鉄剣が見つかる。
- 3 早く着いたから、近くを散歩した。
- 4 牛乳からおいしいチーズを作る。

【R2】復習シート 中学校2年 国語（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

## 【行書について問う問題】

3 次の行書の「柱」の書き方について、楷書との違いについて、1から4の中から正しいもの一つ選びましょう。

レベル9

# 柱

- 1 へんもつくりも画数が変わり、筆順も変わった。
- 2 へんの画数が変わり、つくりは筆順が変わった。
- 3 へんの筆順が変わるが、つくりの筆順は変わらない。
- 4 へんの画数が変わり、つくりの画数も変わった。

